

各 位

会社名 日本郵船株式会社
 代表者名 代表取締役社長 内藤 忠頭
 コード番号 9101
 上場取引所 東証・名証各第一部
 問合せ先 I Rグループ長
 丸山 徹
 (TEL. 03-3284-5151)

第2四半期業績予想値と実績値の差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

2018年7月31日に公表した2019年3月期第2四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日）の連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、通期業績予想につき、以下のとおり修正することとしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 第2四半期業績予想値と実績値の差異について

2019年3月期第2四半期累計期間連結業績予想値と実績値の差異

（2018年4月1日～2018年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A） （2018年7月31日発表）	百万円 896,000	百万円 △7,500	百万円 △5,000	百万円 3,000	円 銭 17.79
今回発表実績（B）	915,670	△4,194	△9,029	△9,795	△58.07
増減額（B－A）	19,670	3,306	△4,029	△12,795	
増減率（％）	2.2%	—	—	—	
（ご参考）2018年3月期第2四半期実績	1,064,279	12,741	22,012	6,291	37.30

差異の理由：

営業利益は、主としてコンテナ船部門において、事業終了に伴う一時費用が想定を下回ったため損失が減少しました。一方、10月16日に開示しましたとおり、定期コンテナ船事業の統合会社（持分法適用関連会社）のOcean Network Express社の業績下方修正に伴う投資損失（営業外費用）により経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が悪化しました。加えて、同時に開示しました当社連結子会社の日本貨物航空（株）が保有する航空機及び予備エンジンの減損損失等、前回予想に含まれていなかった特別損失も計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益が悪化しました。

2. 通期業績予想の修正について

2019年3月期通期連結業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2018年7月31日発表）	百万円 1,765,000	百万円 2,000	百万円 10,000	百万円 12,000	円 銭 71.14
今回修正予想（B）	1,810,000	5,500	△13,000	△6,000	△35.57
増減額（B－A）	45,000	3,500	△23,000	△18,000	
増減率（％）	2.5%	175.0%	—	—	
（ご参考）2018年3月期実績	2,183,201	27,824	28,016	20,167	119.57

※ 業績予想の前提（通期）

為替レート（今回）109.74 円/米ドル （前回）105.78 円/米ドル
 燃料油価格（今回）459.83 米ドル/MT （前回）443.99 米ドル/MT

修正の理由：

コンテナ船部門において Ocean Network Express 社の積高・消席率等の落ち込みによる収支の悪化が見込まれることから、下期の経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益を上記のとおり修正しました。なお、足元で緩やかな回復を見込むドライバルク部門やタンカー部門を始めとする不定期専用船事業と引続き堅調な取扱量を見込む物流事業は概ね順調に推移しています。また、航空運送事業は健全性が確認された機体から運航を再開しており、概ね想定どおりに推移する見込みです。

（注）上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等はさまざまな要因により異なる可能性があります。

以 上